

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨特別支援学校

学校番号	119
------	-----

自己評価

学校教育目標	<p>「ひとりだちのできる子」の育成（自立と社会参加の力を育てる） （思いを伝える 自分も仲間も大切にする なりたい自分を目指す）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活自立（基本的な生活習慣の確立・基礎体力の向上・基礎学力の定着） ・社会自立（情緒のコントロール・コミュニケーションスキルの獲得・規範意識や危険回避能力の育成） ・職業自立（自己理解と行動の調整・働くことの意義や役割の理解・職業に対する理解や実的な知識・技能・態度の習得）
評価する領域・分野	「教育活動の充実（キャリア教育）」（進路指導・関係機関との連携）
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢での活動を意図的に設定した。高等部の作業学習を小中学部が見学したり、作業製品を通して関わりをもったり、レクリエーションをしたり、部活動の大会での成績を全校で表彰したりする中で、懂れる気持ちや相手を思う気持ちが育っていると感じる。しかし、保護者には伝わりにくい部分であった。授業の充実に関しては、保護者、児童生徒共に「あてはまらない」との回答があった。授業力とともに児童生徒に対する評価を伝えるところでの教員の専門性が足りないと考える。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒同士、教員同士が学部を超えて関わり、お互いのことを知る。 ・児童生徒が自分の役割を果たそうとする。 ・児童生徒が自分なりの方法で思いを語るができる。 ・保護者に、キャリア教育や進路についての情報を提供する。 ・教員が、キャリア教育のねらいをもって、日々の支援を行う。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・部を超えた授業参観（研究研修部） ・児童生徒が部を超えて関わる教育活動。（各部・進路支援部・生活支援部） ・児童生徒が役割を果たしたり、自分の思いを表出したりすることができる教育活動。（各部・相談支援部） ・年度初めの全保護者への説明会や懇談で、保護者へ説明。（担任・進路支援部） ・保護者向けの通信を発行。（進路支援部）
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・全校の研究を実践する授業を公開し全校の教師が参観し意見交換をする。 ・全校でのレクリエーション、作業製品を通した関わりの中、他の部の授業を見学に行く場等を設定する。 ・係活動や委員会活動、生活単元学習等の中で、役割分担して取り組む。 ・高等部生徒について、教育支援計画をもとに必要な配慮や将来の自分等について考え、懇談する。 ・キャリア教育の考え方や当校の進路の取組等について、全保護者に向けて説明会を行う。 ・懇談において、現在できるようになったことと将来必要な力とを結びつけて保護者に説明する。 ・保護者向けの通信には、具体的な事例をあげてわかりやすくする。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの内容 ・児童生徒の目標に対する評価 ・懇談時の保護者からの意見
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・各部で取り組んでいる研究については、教員はみな熱心に取り組んでい

	<p>る。9月には小学部の授業を公開し全校で見学、研究会を行ったところ、活発な意見交換が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢での活動として、高等部の生徒が現場実習報告会に小中学部の児童生徒や保護者、事業所の方の参加を募って行った。小中学部の児童生徒には「自分もなりたい」という憧れの気持ちや目指す姿を意識することにつながった。高等部の生徒にとっては、自己理解を深めたり、相手のことを考えて行動するという社会性を高めたりすることにつながった。 ・キャリア教育に関する説明会や新しく始まる福祉制度の研修会を保護者向けに行った。また、懇談を活用し、小学部段階の姿からから中学部・高等部・社会へのつながりについて保護者に伝える努力をしてきたが、まだ伝えきれていない状況である。 ・夏休み等を利用して多くの研修会を行っているが、教員の専門性を向上させ魅力ある授業を展開できるまでには至っていない。
評価の視点	評価
<p>① 全校の児童生徒が関わる機会を設け、自分が目指す姿をイメージしたり自分の役割を果たそうとしたりする姿がみられたか。</p> <p>② 児童生徒が、自分の思いを伝えようとする姿を引き出すことができたか。</p> <p>③ キャリア教育について全学部の保護者が自分のこととして理解できるよう働きかけができたか。</p> <p>④ 本校の職員が、キャリア教育について理解を深めることができたか。</p>	<p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p> <p>A B (C) D</p>
成果・課題	総合評価
<p>○異年齢での活動をさらに増やすことができた。実際に取り組んだ際の児童生徒の姿から、教員においても先を見越した教育活動への意識が生まれている。</p> <p>○普段の授業において、児童生徒が自分たちで目標を立てたり振り返ったりする場面を意識的に作ることができている。自分で目標を決めることで、活動に対する意欲が生まれ、気付き、考えて行動する姿を引き出すことができている。また、その中で、自分の気持ちを言語化して相手に伝える、相手の気持ちを受け止める姿も見られている。</p> <p>▲児童生徒の姿がどういった力がついてきているのか、将来のどんな姿につながるのかといったキャリア教育の視点で保護者に伝えきれていない。</p> <p>▲教員の経験不足は解消できず、日々授業や児童生徒の支援を行うことで精一杯であり、授業を振り返り改善を図るところは今一歩である。</p>	A B (C) D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革を推進し、チームで授業改善や児童生徒への支援について取り組んでいく時間を確保する。 ・児童生徒が「なりたい自分」を目指すことができるために、卒業生から学ぶことができるような機会を設ける。(同窓会との協働) ・キャリア教育推進会議を定期開催し、系統性のある教育活動を推進する。 ・今後も、異年齢での関わり、保護者へのキャリア教育や進路に関する説明会や研修会を計画し、小学部からつながる必要性への理解を深める。

学校関係者評価 (令和 7年10月16日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の掲示がされているが、良い掲示が児童生徒の見通しをもつことにつながり、興味関心や理解を深めることにつながる。 ・異年齢の活動を行う中で、児童生徒が先輩の頑張っている姿を見ることができる場面が作られている。 ・卒業生との交流を計画すると良いのではないか。卒業生がピアカウンセラーとして、在校生に助言やアドバイスができる。当事者同士で話すことが大切であると考える。
--

